

令和6年3月13日

足立区立江北小学校
学校長 武智 勇喜様

足立区立江北小学校
開かれた学校づくり協議会
会長 齋藤 直秀

令和5年度学校関係者評価書

1：自己評価書について

コロナ禍と言われた制限下の情勢で高野小学校との統合を経てきたが、「かしこく やさしく しなやかな江北の子」（知徳体の涵養）の学校教育目標を揺るがすことなく創意工夫しながら取り組んできた学校の姿勢について大きく評価したい。

学力面では学習コンテストの実施で児童の学習意欲を高めて基礎学力向上を図り、その成果が徐々に表れて来ているのかと思う。その一例として当協議会主催の「漢字能力検定(漢検)」についても年々受検希望者が増えていることから感じ取れる。

体力面では夏季の異常な酷暑に於いて、プール授業も殆ど実施できないなど外部的な要因もあるかと思うが、今年度計画していた取り組みが実施できなかった分、来年度以降に期待したい。

生活面ではコミュニケーションの基本である挨拶を、「あいさつ運動」を通じて身に付けてもらいたい。場に応じた挨拶が出来るようになるには、やはり継続的に行うことが必要だと感じる。

教職員も大所帯となったが、若手も多く活力がある。教職員の校内研修などでスキルアップ(授業力)を向上させる取り組みは、学校全体のスキルアップにも繋がることでもあるので職務多用のことかと思いますが是非とも成果をあげて頂きたい。

2：課題・解決の方向性、地域・保護者へのメッセージについて

事由が明確でない欠席児童、遅刻する児童が非常に多いという点は気になるところであります。

学区域が広がり登下校に時間を要すこともあるだろうが、感染対策が緩和されたとは言え、集団生活に対する不安や児童の登校前に両親が出勤するなど様々な家庭事情があるのだと推測する。継続的な改善課題として、ご家庭への声掛けも引き続き対応願いたい。

また、ご家庭にも一緒に学校を創り上げていく感覚を持って頂き、交流する場を設けることも一案ではと思う。

(例)学校(教職員)・保護者(ご家庭)・地域の三者共催による「江北小まつり」的なイベント

地域としては交通安全週間を中心に登校時の通学路要所(信号・横断歩道)や下校時に江北平成公園交差点での見守り声掛けを実施、足立区安全安心パトロール(通称青パト)で学区域の巡回も行っている。また、放課後教室「いちようフレンズ」スタッフの方々が学区域各方面にお住まいであることから、路上で児童と

言葉を交わすことも、あいさつ運動と防犯見守りを兼ねていると考える。他校の実施例だが、掛け算の九九や、都道府県名と名産品、漢字の読み方を階段アートのように掲示していた。そこに生活目標など自然と児童の目につく箇所にメッセージを発信するのも良いかと感じた。

3：その他

令和6年度に創立150周年を迎える。新年度に入り本格的に始動することになると思うが、学校内だけでなく地域一体となり、相互の益々の発展に寄与できる周年事業にしたい。

とは言え、統合して2年間で10年分のボリュームを盛り込むことは諸々の情勢を鑑みると困難であることも事実であり、周年事業内容に於いて学校として「これは絶対に必要、欠かせないもの」を早い段階で周年事業実行員会に示して頂き、検討を進めたいと思う。

多々課題はあるが、江北小学校と学区域である江北地区の団結力と魅力を発信する良い機会と考え取り組んで参りたいと考える。

以上